

第3学年「国語」学習指導案

授業者 下脇 陽子

2月15日（土）3階D室 9:00～9:40（話し合い11:00～11:45）

1 単元名 みんなで物語のおもしろさを見つけよう ～なぞがいっぱい「ゆうすげ村の小さな旅館」～

2 単元について

単元	・物語の仕掛けを探しながらことばに立ち止まって読み、考えたことを伝え合う。
目標	・物語の仕掛けと出来事とのつながりを考えながら複数の作品を読み、物語の面白さを感じる。

「自分では考えつかなかったことも、みんなといっしょに考えることでより深くお話を楽しむことができました。」—これは、9月に『ちいちゃんのかげおくり』（光村図書）を学習した際の、ある児童のふり返りである。三年生は、ひとりで読んだときに気がつかなかったり、よく分からなかったりしたことも、友達と意見や考えを交流することを通して作品への理解を深め、考えを拡充していく時期ではないだろうか。個による読みと協働的な読みを繰り返し、「みんなで読んで楽しかった。」という実感のある学びを積み重ね、一人一人の読書経験を豊かなものにしていきたい。そのように考え、物語単元では、それぞれが読んだときに生まれる疑問や感想をもとに問いを立て、叙述に着目しグループや全体で話し合いながら、5月『春風をたどって』（東京書籍）、9月『ちいちゃんのかげおくり』（光村図書）、1月『サーカスのライオン』（東京書籍）の教材を読み深めてきた。問いをもって読むことで「これはどういうことだろう。」とことばに立ち止まって物語を読み返し、問いに対する自分なりの考えをもてるようになってきた。

本単元で扱う「ゆうすげ村の小さな旅館」は、1年間に渡る12の作品から構成されている短編集で、令和6年度版教科書（東京書籍）には、その中から『ウサギのダイコン』と『クマの風船』が掲載されている。『ウサギのダイコン』は、一人で旅館を切り盛りしているつぼみさんのもとに現れた美月という娘が、実はウサギであったという話である。美月の正体はなぞめいているが、例えば“美月”という名前や“色白でぽっちゃりしている”などの特徴は、美月の正体がウサギであることの伏線（仕掛け）となっており、次第に正体が明らかになるところが本作品の魅力の一つである。また、他章の作品でも、なぞめいたお客さんが泊まりに来て不思議な出来事が起こるため、子どもたちは楽しんで読むであろう。

そこで本単元では、物語のなぞを紹介し合うという言語活動を設定する。例えば「美月さんの正体は？」というなぞを解くためには、叙述を丁寧に読むことが求められる。叙述、すなわち、人物の名前、特徴、人柄などを出来事と関連付けて読み、それぞれの仕掛けが作品においてどのような役割を果たしているのか考えることを通して、物語の面白さを味わう機会としたい。また、複数の作品を扱い、それぞれのグループでの読みを交流することを通して、一人一人の感じ方の違いに気づき、読書生活が広がることを期待する。

3 学習指導計画（9時間目／全11時間）

第1次 学習材「ゆうすげ村の小さな旅館」と出会い、学習の見通しをもつ。

『ウサギのダイコン』について、なぞ解きをしながら読む。（5時間）

第2次 「ゆうすげ村の小さな旅館」の他作品を、グループごとになぞ解きしながら読む。（3時間）

第3次 グループごとの読みを交流し、物語の面白さについて考える。（3時間・本時）

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

・物語の仕掛けに着目して考えたことを交流し、物語の面白さについて考えを深める。

（2）予想される本児の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. グループごとに作品のなぞを紹介し合う。 2. なぞについて考えたことを交流する。 3. 学習をふり返り、物語の面白さについて考えを深める。	○事前に、いちばん面白いと思う作品ごとにグループを作る。本時までに各グループが選んだ作品については全員が読んでおくようにする。 ○謎の紹介ができるように、事前に、グループごとに担当作品について考えたことを画用紙等にまとめておく。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

・なぞ解きをすることによって、一人一人がことばへの感度を働かせ、物語の面白さについて考えを深めることができたか。